

短期大学英文学科卒業生の英語学習意欲¹⁾

—夜間講座開講にむけてのアンケート調査結果から—

清 瀬 健

1. はじめに

首都圏を中心に『ケイコとマナブ』(婦リクルート)という月刊誌が発行されている。職業をめざしての技術を学ぶことから、楽しみながらおけいこをすることができるような学校情報を載せた、主に若い女性をターゲットにしているらしい情報雑誌である。通信教育を含め、学習する内容別に記載されているばかりでなく、首都圏の鉄道沿線ごとに、どの駅でどんな技術・技能を教える学校があるのかも、示されている。

このような雑誌が存在しているということは、学生、社会人を問わず、多くの人々が何らかの目的をもって昼夜学んでおり、その機会を提供し、商売として成り立っている学校が既に数多く存在しているという事実である。

一方、近年ほとんどの短大・大学では「一般公開講座」なるものを催し、社会にも門戸を開いている。しかしながらこれらの内容の多くは、教養的な色彩が濃く講座の期間もごく短期間であり、ある技術・技能の習得や、資格を得るためのものは少ない。制約の少ない小さな学校が、商売とは言え、人々の学習意欲に俊敏に反応しているのに対し、短大・大学等の高等教育機関の反応は、至って鈍いと言わざるを得ない。

18才人口の急減期をむかえると同時に、女子の4年制大学志向が進む中、短大・大学、なんかずく女子短期大学のおかれている状況

は極めて厳しいものがある。かつてのように、学校側・教える側の論理のみでカリキュラムが構成され、ごく限られた者だけに施されていた高等教育のシステムは、もはや通用しなくなっている。短大・大学も社会の知的要求を敏感に察知し、その要求を満たす形のサービスを提供して行かなければ、生き残れない時代にきているのではなからうか。

2. 目 的

本研究の目的は、短大英文学科卒業生の英語との関わり、及び英語学習意欲を調査することと同時に、母校で主に卒業生を対象にした夜間講座を開講することに対する、卒業生の反応を調べ、短大での夜間講座開講のための参考資料とするものである。

3. 仮 説

- (1) 卒業後、時間があまり経過していない短大英文学科卒業生(卒業後6年間まで)の多くは、英語能力の維持・向上のため何らかの努力をしており、その英語学習意欲は高い。
- (2) 母校で夜間講座を開講することに卒業生は好意的な反応を示す。
- (3) 短大英文学科卒業生の中には、卒業後仕事に就いてから、留学をめざしている者が多数(回答者の50%)いる。

4. 調査

4-1 調査対象者

北星学園女子短期大学英文学科卒業生で、卒業後1年から6年（1986年3月卒～1991年3月卒）を経過した、札幌市内の中心部に居住する300名。

4-2 方法

札幌市内中心部に居住する卒業生を、同窓会名簿から300名（各年度50名ずつ）を無作為に抽出した。1992年11月21日アンケート用紙（返信用切手付封筒を同封）を送付し、3週間以内に回答をよせるよう依頼。

5. 分析

(1) 回収率とアンケート回答者の内訳

①回収率

回答者数 132名
回収率²⁾ 46%

② アンケート回答者の内訳

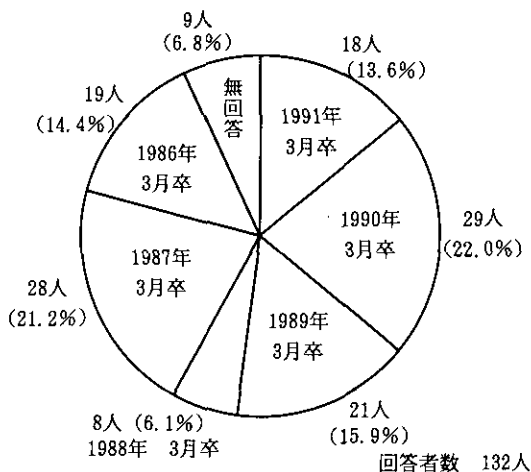
Q.1 あなたの卒業年次は何年ですか。

- a. 1991年3月卒（平成3年）
18人（13.6%）
- b. 1990年3月卒（平成2年）
29人（22.0%）
- c. 1989年3月卒（平成元年）
21人（15.9%）
- d. 1988年3月卒（昭和63年）
8人（6.1%）
- e. 1987年3月卒（昭和62年）
28人（21.2%）
- f. 1986年3月卒（昭和61年）
19人（14.4%）

無回答 9人（6.8%）

〔1988年度卒の対象者を除き、各年度からほぼまんべんなく回答を得た。〕

図1. アンケート回答者の内訳



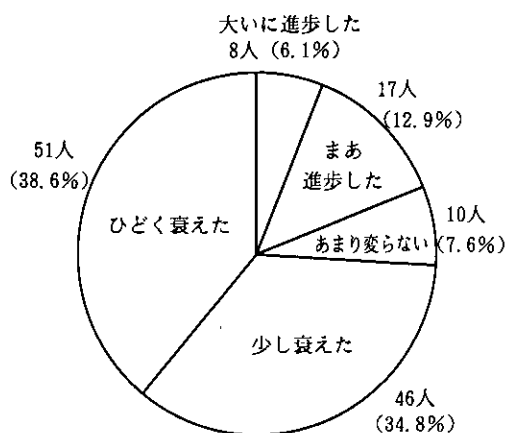
(2) 卒業後の英語力及びその維持・向上について

Q.2 短大卒業後、自分の英語力は進歩したと思いますか。

- a. 大いに進歩した 8人（6.1%）
- b. まあ進歩した 17人（12.9%）
- c. あまり変わらない 10人（7.6%）
- d. 少し衰えた 46人（34.8%）
- e. ひどく衰えた 51人（38.6%）

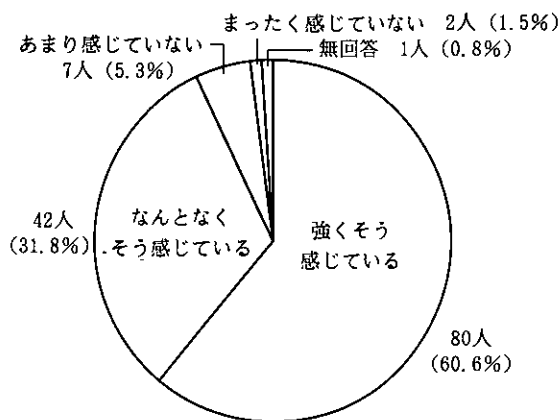
〔卒業後、自分の英語力が進歩した、と感じている者は回答者の19%（a + b）であるのに対して、衰えた、と感じている者は74%（d + e）にのぼることがわかる。〕

図 2. 卒業後、自分の英語力は進歩したと思うか



回答者数 132人

図 3. 卒業後、英語力の維持・向上をしなければならぬと感じているか



回答数 132人

Q.3 短大卒業後、自分の英語力の維持・向上をしなければならぬと感じていますか。

- a. 強くそう感じている
80人 (60.6%)
- b. なんとなくそう感じている
42人 (31.8%)
- c. あまり感じていない
7人 (5.3%)
- d. まったく感じていない
2人 (1.5%)
- 無回答 1人 (0.8%)

〔回答者の9割以上(a + b)が英語力の維持・向上の必要性を感じている、と答えている。〕

Q.4 現在、英語力の維持・向上のため何かしていますか。(複数回答可)

- a. 授業料を払って英語を習っている
17人 (12.9%)
- b. テレビ・ラジオの講座を見たり聴いたりしている
36人 (27.3%)
- c. ビデオや音声多重番組で英語に触れるようにしている
57人 (43.2%)
- d. 特に何もしていない
41人 (31.1%)
- e. その他
25人 (18.9%)

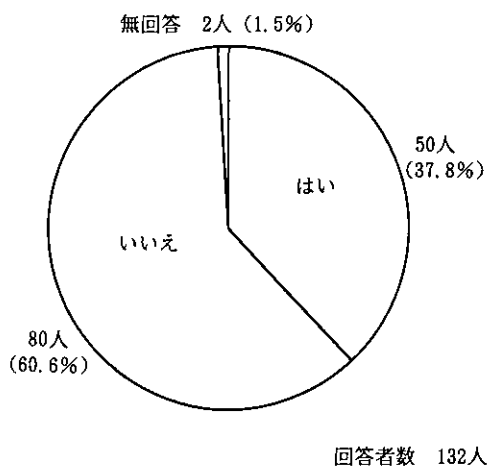
回答者数 132名

〔「その他」に回答した者の内訳は、英文の活字(雑誌、本、新聞等)に触れる、市販されている英語のテープを聞く、と答えた者が大半を占めた。それゆえ d. の「特に何もしていない」と回答した者を除く、全体の7割の者が、何らかの形で英語力の維持・向上に努めていることになる。〕

Q.5 現在、(又は卒業後のある時期に)
先生について英語を学んでいますか
(学んだことがありますか)。

- a. はい 50人 (37.9%)
- b. いいえ 80人 (60.6%)
- 無回答 2人 (1.5%)

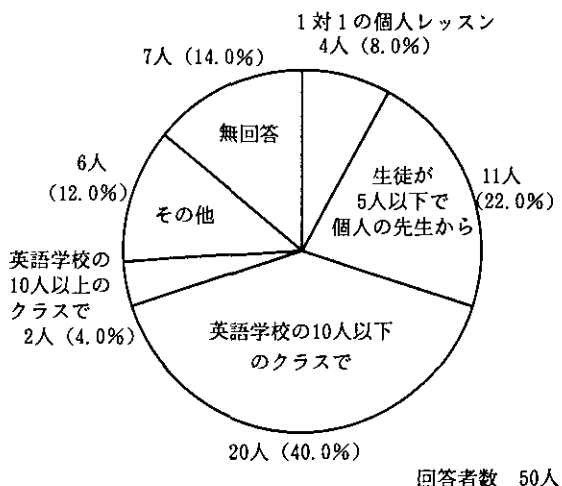
図4. 卒業後、先生について英語を学んでいるか (いたか)



Q.6 どの様な形態で学んでいますか
(いましたか)。

- a. 1対1の個人レッスン 4人 (8.0%)
- b. 生徒が5人以下で個人の先生から 11人 (22.0%)
- c. 英語学校の10人以下のクラスで 20人 (40.0%)
- d. 英語学校の10人以上のクラスで 2人 (4.0%)
- e. その他 6人 (12.0%)
- 無回答 7人 (14.0%)

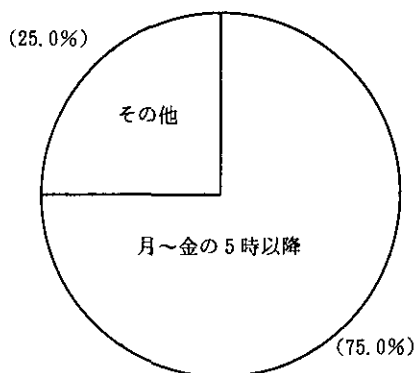
図5. 学習形態



Q.7 現在学んでいる曜日と時間帯はいつですか。

- a. 月～金の5時以降 12人 (75.0%)
- b. 月～金の午前中、午後5時までの間 0人 (0.0%)
- c. 土曜日の午前中 0人 (0.0%)
- d. 土曜日の午後 0人 (0.0%)
- e. その他 () 4人 (25.0%)

図6. 学習する曜日と時間帯

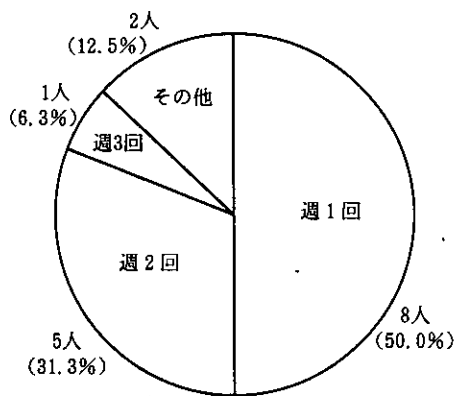


回答者数 16人

Q.8 週に何回くらい現在習っていますか。

- a. 1回 8人 (50.0%)
- b. 2回 5人 (31.3%)
- c. 3回 1人 (6.3%)
- d. 4回 0人 (0.0%)
- e. その他 () 2人 (12.5%)

図7. 学習回数



回答者数 16人

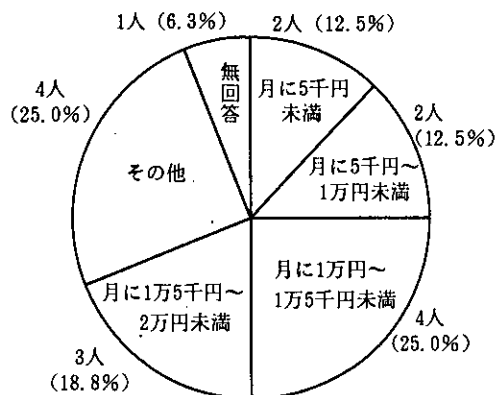
Q.9 授業料は現在月平均いくらくらいですか。

- a. 月に5千円未満 2人 (12.5%)
- b. 月に5千円-1万円未満 2人 (12.5%)
- c. 月に1万円-1万5千円未満 4人 (25.0%)
- d. 月に1万5千円-2万円未満 3人 (18.8%)
- e. その他 4人 (25.0%)
無回答 1人 (6.3%)

「その他」の内訳は、年間30万円以上の代金を一括で支払った者が3名、他1名はディレクトメソッドで著名な会話学

校で月額2万6千円。]

図8. 授業料

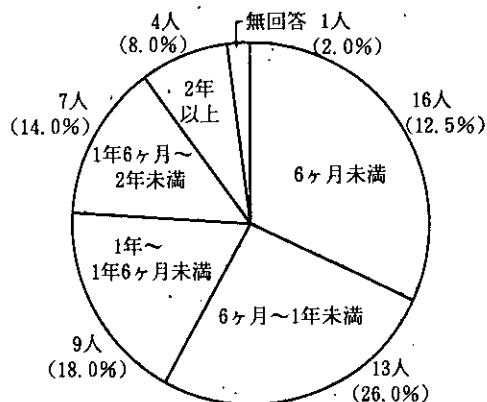


回答者数 16人

Q.10 どのくらいの期間続いていますか (いましたか)。

- a. 6ヶ月未満 16人 (32.0%)
- b. 6ヶ月-1年未満 13人 (26.0%)
- c. 1年-1年半未満 9人 (18.0%)
- d. 1年半-2年未満 7人 (14.0%)
- e. 2年以上 4人 (8.0%)
無回答 1人 (2.0%)

図9. 学習期間



回答者数 50人

Q. 11 過去に習っていてやめた理由は
何ですか（複数回答可）。

- a. 仕事がいそがしくて
11人 (32.4%)
 - b. 教師個人に不満で
2人 (5.9%)
 - c. 授業内容に不満で
11人 (3.2%)
 - d. 健康上の理由で
0人 (0.0%)
 - e. その他 ()
14人 (41.2%)
- 回答者数 34名

〔「その他」の内訳は、a、b、cに含まれると思われるもの3、物理的に通えなくなったため6、期間が終了したため4、無回答1。〕

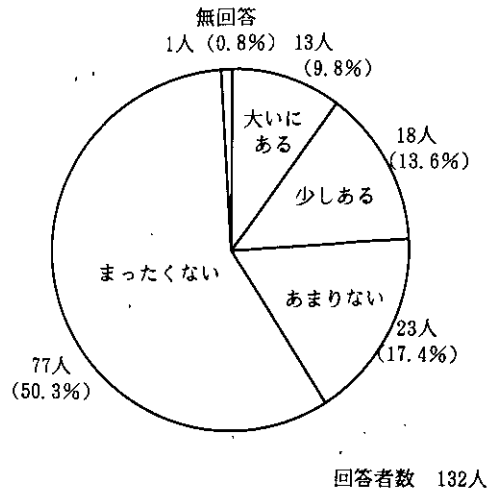
(3) 仕事と英語との関わりについて

Q. 12 現在、自分の仕事と英語との関わりはありますか。

- a. 大いにある 13人 (9.8%)
- b. 少しある 18人 (13.6%)
- c. あまりない 23人 (17.4%)
- d. まったくない 77人 (58.8%)
- 無回答 1人 (0.8%)

〔「あまりない」と「まったくない」を合わせた、英語と関わりがない仕事をしている者は回答者の75%を占める。その一方で、「大いにある」と「少しある」を加えると24%になり、回答者のおよそ¼が学校で学んだ英語を生かした仕事をしていることになる。〕

図10. 仕事と英語との関わり



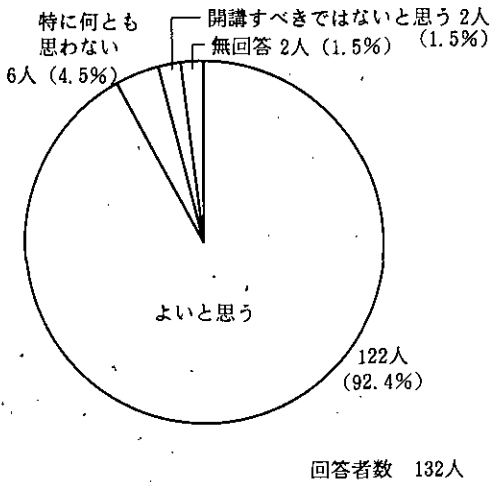
(4) 母校で夜間、英語を中心にしたコースを開講することに対する反応について

Q. 13 北星短大が夜間、英語を中心にしたコースを開講するとしたら、あなたはそのことをどう思いますか。

- a. よいと思う 122人 (92.4%)
- b. 特に何とも思わない
6人 (4.5%)
- c. 開講すべきではないと思う
2人 (1.5%)
- 無回答 2人 (1.5%)

〔夜間コースを開講することに、回答者の9割以上が好意的に感じていることがわかる。〕

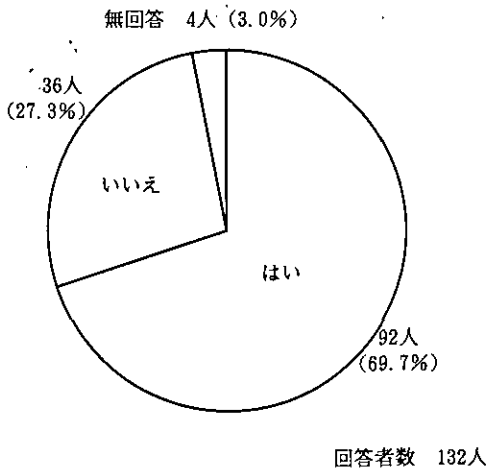
図11. 母校で夜間コースを開講することに対する反応



Q. 14 北星短大が夜間、英語を中心に
したコースを開講するとしたら、
あなたは習いに行くことを考えま
すか。

- a. はい 92人 (69.7%)
- b. いいえ 36人 (27.3%)
- 無回答 4人 (3.0%)

図12. 母校で夜間コースを開講した場合、
習いに行くことを考えるか



〔夜間コースの開講に好意的に感じてい
るばかりでなく、習いに行く可能性のあ

る者が回答者の7割いることがわかる。〕

Q. 15 Q. 14で「はい」と答えた理由は
何ですか (複数回答可)。

- a. なつかしい感じがするから 21人 (22.8%)
- b. 職場や家から近いから 13人 (14.1%)
- c. 内容次第だが興味があるから 78人 (84.8%)
- d. 授業料次第だが興味があるから 47人 (51.1%)
- e. その他 15人 (16.3%)

回答者数 92人

〔習う場合の最重要ポイントはやはり学
習内容ということになる。また、授業料
も大きな関心事であり、学生時代とちが
い自分で働いたお金で払うことになるだ
けに、大いに気になるようだ。母校で再
び学ぶことは学生時代にもどるような感
覚になるのか、なつかしい思いで習いに
くることを考える者が回答者の約1/4い
る。職場や家から近いという要素は、数
字の上ではさほど重要視していないとい
う結果がでている。〕

Q. 16 どのようなコースをとりたいと
思いますか (複数回答可)。

- a. 会話のコース 75人 (81.5%)
- b. 英検等の検定試験のためのコース 29人 (31.5%)
- c. ガイド・通訳検定等の国家試験の
ためのコース 28人 (30.4%)
- d. TOEFLを中心とした留学のため
のコース 14人 (15.2%)

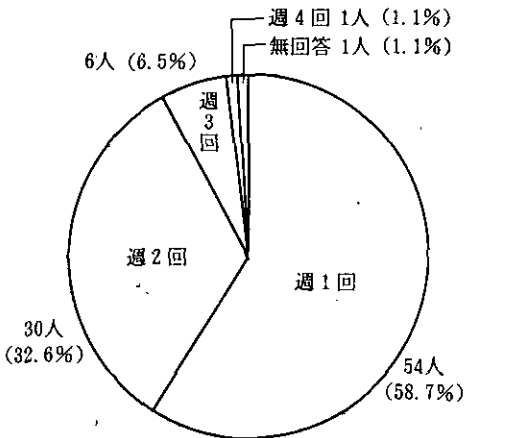
- e. その他 () 14人 (15.2%)
 回答者数 92人

「会話のコース」をとりたいと思っている者が8割以上いることは、多くの者がコミュニケーション能力の必要性を強く感じているのであろう。「その他」の回答のうち、学生時代に習っていた英語学や英米文学、文化等の短大の授業の延長のようなコースを希望している者も数名あった。

Q.17 習うとしたら週に何回くらい通えますか。

- a. 1回 54人 (58.7%)
 b. 2回 30人 (32.6%)
 c. 3回 6人 (6.5%)
 d. 4回 1人 (1.1%)
 e. 5回以上 1人 (1.1%)

図13. 夜間コースに通える回数



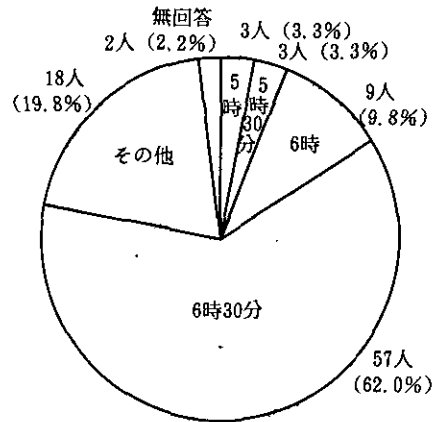
回答者数 92人

Q.18 月-金だとした時の授業開始時間は何時からが都合がいいですか。

- a. 5時 3人 (3.3%)
 b. 5時30分 3人 (3.3%)
 c. 6時 9人 (9.8%)
 d. 6時30分 57人 (62.0%)
 e. その他 18人 (19.6%)
 無回答 2人 (2.2%)

「その他」のうち、7時以降を希望した者が15人いた。6時(9人)の希望者よりも多く、仕事の都合、通学時間等を考慮すると7時前後の開始が望ましいようだ。

図14. 希望する授業開始時間

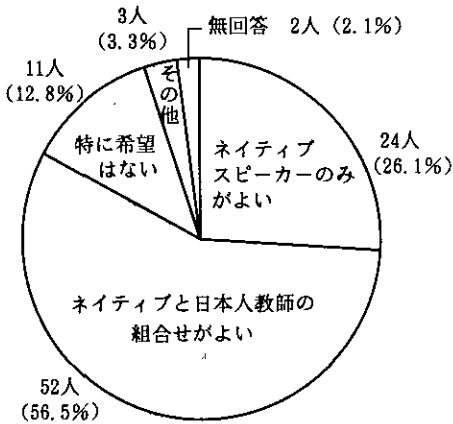


回答者数 92人

Q. 19 どんな教師を望みますか(その1)。

- a. ネイティブスピーカーのみがよい 24人(26.1%)
- b. ネイティブスピーカーと日本人教師の組合せがよい 52人(56.5%)
- c. 日本人のみがよい 0人(0.0%)
- d. 特に希望はない 11人(12.0%)
- e. その他 () 3人(3.3%)
無回答 2人(2.1%)

図15. どんな教師を望むか(1)

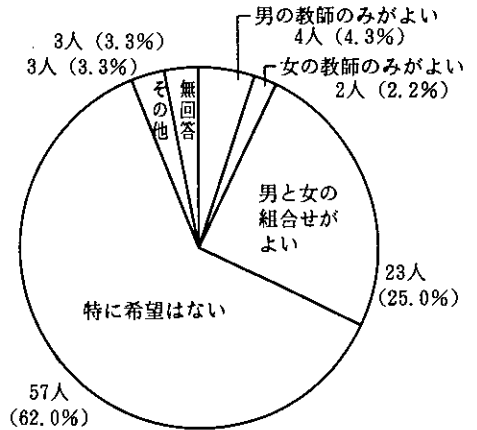


回答者数 92人

Q. 20 どんな教師を望みますか(その2)。

- a. 男の教師のみがよい 4人(4.3%)
- b. 女の教師のみがよい 2人(2.2%)
- c. 男と女の組合せがよい 23人(25.0%)
- d. 特に希望はない 57人(62.0%)
- e. その他 3人(3.3%)
無回答 3人(3.3%)

図16. どんな教師を望むか(2)

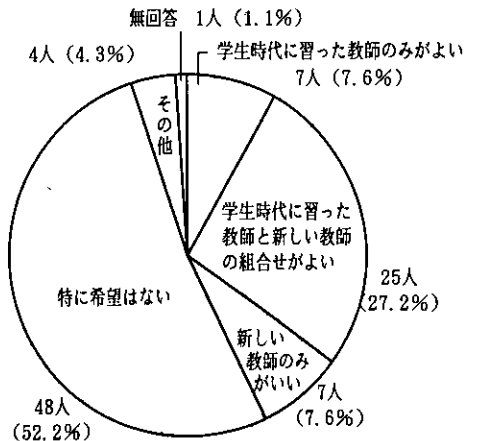


回答者数 92人

Q. 21 どんな教師を望みますか(その3)。

- a. 学生時代に習った教師のみがよい 7人(7.6%)
- b. 学生時代に習った教師と新しい教師の組合せがよい 25人(27.2%)
- c. 新しい教師のみがよい 7人(7.6%)
- d. 特に希望はない 48人(52.2%)
- e. その他 () 4人(4.3%)
無回答 1人(1.1%)

図17. どんな教師を望むか(3)



回答者数 92人

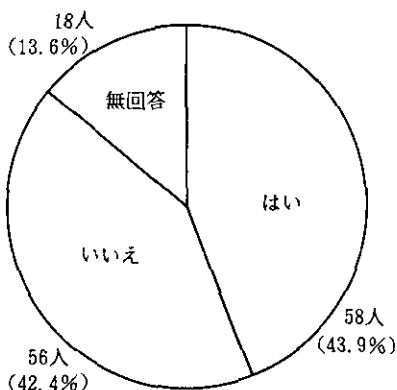
〔希望する教師は、ネイティブと日本人教師の組合せが半数を越えている。「その他」の回答の中にも見られたが、これは、会話はネイティブスピーカーの教師で、日本人教師には会話以外の科目の担当を希望しているものと思われる。なつかしさも手伝ってか、学生時代に学んだ教師にもう一度習ってみたいとの希望も35% (a + b) あることがわかる。しかしながら教師に関しては、全体的にあまり強いこだわりがないといえる。〕

(5) 卒業後の留学希望について

Q. 22 短大卒業後、留学をしてみよう
と考えたことがありますか。

- a. はい 58人 (43.9%)
- b. いいえ 56人 (42.4%)
- 無回答 18人 (13.6%)

図18. 卒業後、留学を考えたことがあるか



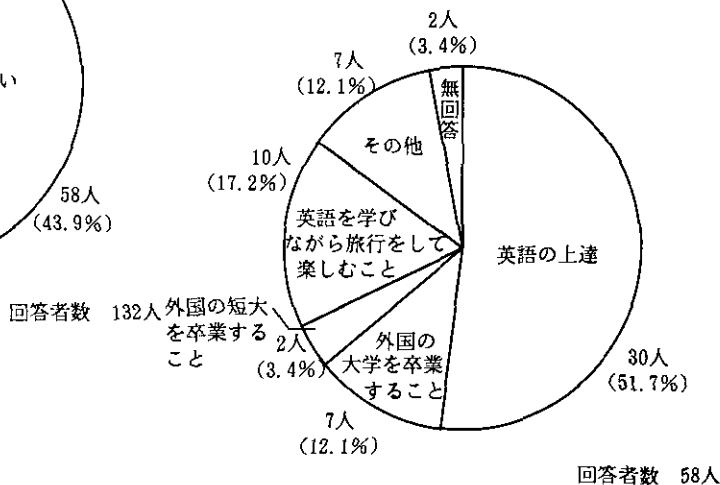
Q. 23 留学を考えた動機は何ですか
(複数回答可)。

- a. 英語力を伸ばしたいから 46人 (79.3%)
- b. 大学卒業の資格がほしいから 7人 (12.1%)
- c. 具体的な職業につくために留学が必要と考えたから 13人 (22.4%)
- d. 外国生活を経験してみたいから 30人 (51.7%)
- e. その他 () 8人 (13.8%)

Q. 24 留学の最終的な目的は何ですか。

- a. 英語の上達 30人 (51.7%)
- b. 外国の大学を卒業すること 7人 (12.1%)
- c. 外国の短大を卒業すること 2人 (3.4%)
- d. 英語で学びながら旅行等をして楽しむこと 10人 (17.2%)
- e. その他 () 7人 (12.1%)
- 無回答 2人 (3.4%)

図19. 留学の最終目的

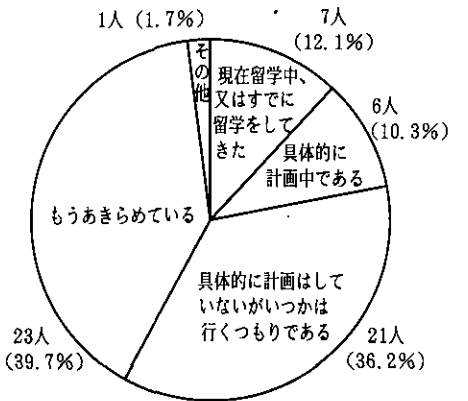


〔留学の最大の目的は英語力を高めること
のようで、大学の学部卒以上の資格までを
めざしている者は少ないといえる。〕

Q. 25 留学の可能性について。

- a. 現在留学中、又はすでに留学をしてきた 7人 (12.1%)
- b. 具体的に計画中である 6人 (10.3%)
- c. 具体的に計画はしていないがいつかは行くつもりである 21人 (36.2%)
- d. もうあきらめている 23人 (39.7%)
- e. その他 () 1人 (1.7%)

図20. 留学の可能性

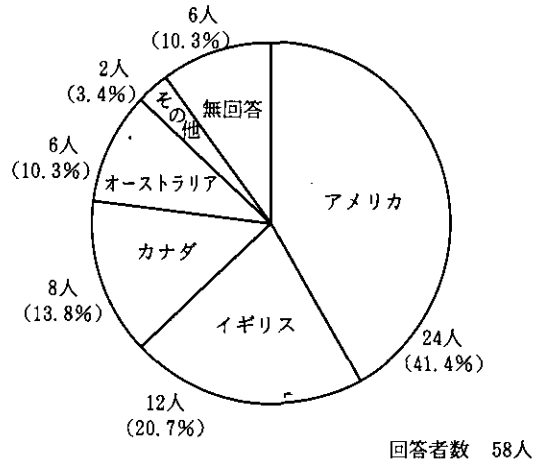


回答者数 58人

Q. 26 留学先はどの国を希望していますか。

- a. アメリカ 24人 (41.4%)
- b. イギリス 12人 (20.7%)
- c. カナダ 8人 (13.8%)
- d. オーストラリア 6人 (10.3%)
- e. その他 () 2人 (3.4%)
- 無回答 6人 (10.3%)

図21. 希望する留学先

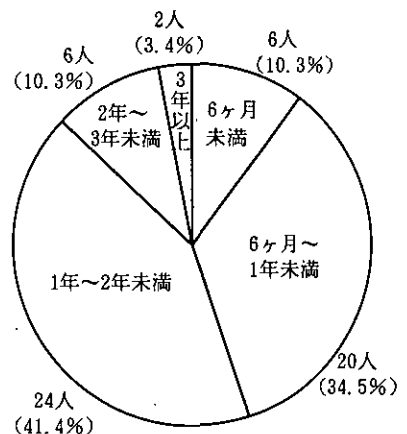


回答者数 58人

Q. 27 期間はどのくらい考えていますか。

- a. 6ヶ月未満 6人 (10.3%)
- b. 6ヶ月 - 1年未満 20人 (34.5%)
- c. 1年 - 2年未満 24人 (41.4%)
- d. 2年 - 3年未満 6人 (10.3%)
- e. 3年以上 2人 (3.4%)

図22. 留学期間

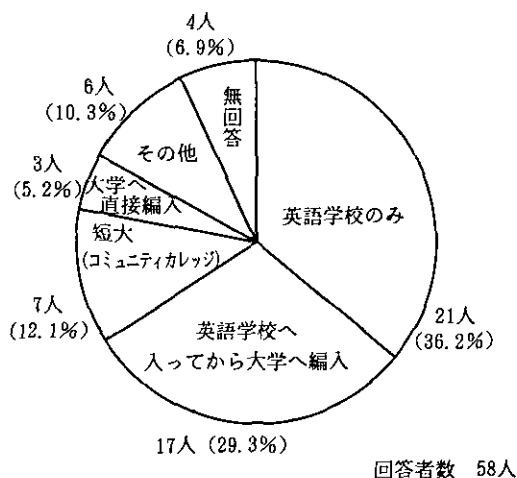


回答者数 58人

Q. 28 具体的にどの種類の学校を考えていますか。

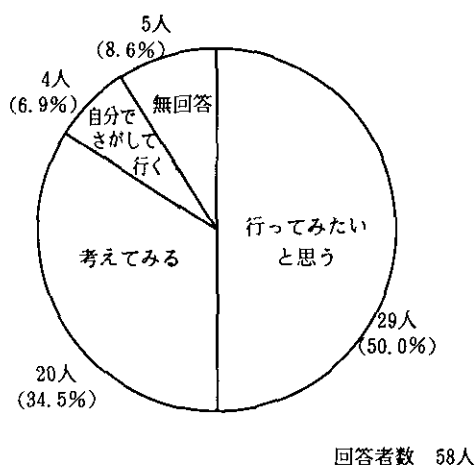
- a. 英語学校のみ 21人 (36.2%)
- b. 英語学校に入ってから大学へ編入 17人 (29.3%)
- c. 短大 (コミュニティカレッジ) 7人 (12.1%)
- d. 大学へ直接編入 3人 (5.2%)
- e. その他 () 6人 (10.3%)
- 無回答 4人 (6.9%)

図23. 留学先の学校



べ、必要な提出書類を作成し、手続をとらなければならない。手続が完了しても、その学校についての信頼性や外国生活に関する不安もあろう。その点、母校の提携校があれば学校の信頼性については問題なさそうだし、色々な疑問点についても教員にたずねることができる。また、親に対しても母校の提携校であれば説得が容易である、等の理由から、提携校があれば利用してみたいと考えている者が多くいるものと思われる。]

図24. 母校との提携校があれば行ってみたいと思うか



Q. 29 北星短大との提携校があれば行ってみたいと思いますか。

- a. 行ってみたいと思う 29人 (50.0%)
- b. 考えてみる 20人 (34.5%)
- c. 自分でさがして行く 4人 (6.9%)
- 無回答 5人 (8.6%)

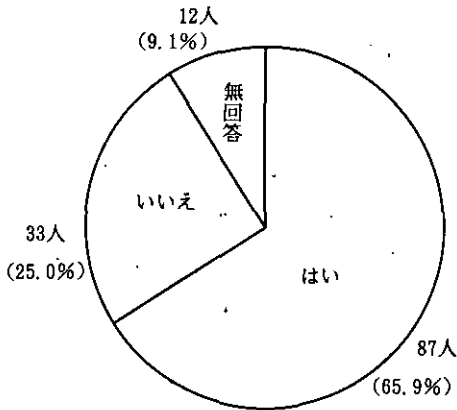
(6) フルタイムで仕事をしている割合及び仕事の満足度について

Q. 30 現在、週約40時間又はそれ以上働き収入を得る仕事をしていますか。

- a. はい 87人 (65.9%)
- b. いいえ 33人 (25.0%)
- 無回答 12人 (9.1%)

[自分で留学先の学校をさがして行く場合、仕事をしながらその学校についてよく調

図25. フルタイムで働いているか

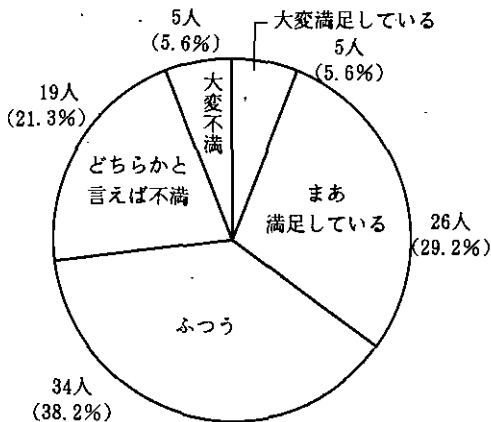


回答者数 132人

Q. 31 仕事の満足度は？

- a. たいへん満足している 5人 (5.6%)
- b. まあ満足している 26人 (29.2%)
- c. ふつう 34人 (38.2%)
- d. どちらかと言えば不満 19人 (21.3%)
- e. たいへん不満 5人 (5.6%)

図26. 仕事の満足度



回答者数 89人

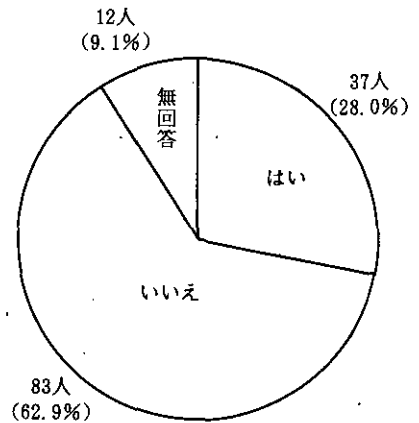
〔「仕事に満足している、していない」についての分布はほぼ正規分布になっている。〕

(7) 就職後の定着率と転職回数

Q. 32 卒業後転職をしましたか。

- a. はい 37人 (28.0%)
- b. いいえ 83人 (62.9%)
- 無回答 12人 (9.1%)

図27. 卒業後、転職をしたか

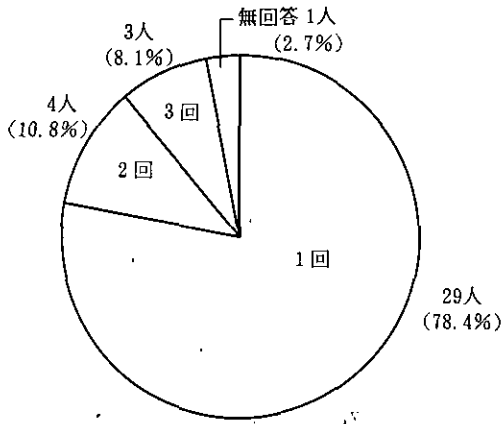


回答者数 132人

Q. 33 何回転職をしましたか。

- a. 1回 29人 (78.4%)
- b. 2回 4人 (10.8%)
- c. 3回 3人 (8.1%)
- d. 4回 0人 (0.0%)
- e. 5回以上 0人 (0.0%)
- 無回答 1人 (2.7%)

図28. 何回転職をしたか



回答者数 37人

6. 結果と考察

6-1 仮説の検証

- ① Q. 3、4、5の分析で明らかのように、回答者の9割以上が卒業後、自分の英語力の維持・向上をしなければならないと考えていること、また、回答者の7割の者が何らかの形で具体的に英語力の維持・向上に努めていることから、仮説①は検証されたとと言える。
- ② Q. 13、14の分析で明らかのように、回答者の9割以上が母校で夜間、英語を中心としたコースを開講することに好意的であり、回答者の7割が実際に習いに来ることを考えていることから、仮説②は検証されたとと言える。
- ③ Q. 22の分析結果より、回答者の44%が留学を試みようと考えていることが判明したが、設定した50%の数字を越えるにいたらなかったことから、仮説③は検証されなかった。しかしな

がら50%を越えなかったものの、それに近い数字を得たことは、卒業後働きながら、留学をめざしている者がかなりいることを示している。

6-2 考察

学習意欲が高いことに関しては、在学中に身につけたある程度の英語力が、卒業後、仕事に就いて英語の使用から離れていることでかなりのレベルダウンが生じ、これを何とかしなくてはと的一种、あせりのような思いからきているものと思われる。

母校での夜間の英語コース開講について好意的で、自分でも習いに来ることを考えている点については、コースの内容と授業料はいいのだが、なつかしさ、信頼感も手伝ってか、再び学生にもどってみたいとの願望が働いているようだ。短大入学時、新入生の動機づけはかなり高いが、卒業時までには様々な理由から低下してくる。しかしいったん就職し、しばらくの間勉学から遠ざかっていると、再び意欲が盛り返し、学ぶことが新鮮に思えてくるのではあるまいか。

留学の希望については、短大在学中から多くの者がその願いを持っているが、実際に行動に移して長期の留学を実現させる者は多いとは言えない。しかしながら、①仕事についてから数年を過て、仕事に対してマンネリ感をおぼえてくる ②年齢的にまだ十分若い

③勉学から離れて再び学習意欲がわいている

④外国での生活に対するあこがれ ⑤留学を可能にさせる資金の貯え ⑥留学後、地域さえ限定しなければ学んできた事を生かす職に就く事が可能な社会である、等の理由から、今後も短大英文学科卒業生の留学希望は益々増加の傾向をたどると予想される。

7. 結 語

短期大学卒業生の母校への思い入れは以外と深いにもかかわらず、母校側の卒業生に対する関心は一般に低いと言える。

かつては、卒業さえさせれば学校側の使命ははたしたことになり、卒業生の方もそれ以上を母校に望むようなことはなかったのではあるまいか。しかしながら、学校、とりわけ女子短大を取り巻く社会情勢は一変し、短大の最終学歴学校としての存在意義は崩れはじめてきている。にもかかわらず、それに対する学校側の認識はけっして十分とは言えない。

これまでに、英文学科卒業生を対象にして英語学習意欲等を調査する類いの研究も、ほとんど見あたらない。それゆえ、その実態を母校側は把握しておらず、実態がわからないだけに母校が、英文学科卒業生に対してどのようなサービスを提供すべきなのかについて、あまり積極的に考えるということもなかったのではなからうか。

本調査から、短大英文学科卒業生の英語学習意欲を中心とした実態が部分的にはあるが、明らかになった。この調査結果を基に、実態として現われた卒業生の知的欲求や期待に応えられるよう学校側がサービス提供の用意をするのであれば、生涯教育実践の一助にもなり、今後このようなサービス提供が、女子短大の新たな役割になってこよう。

〔注〕

- 1) 本調査のためのアンケート用紙発送およびデータの整理等で、英文学科資料室の菊地侑子さん、玉置陽子さんのお二人に多大なご協力をいただきました。ここに感謝の意を表します。
- 2) 同窓会名簿から300名を選びアンケート用紙を郵送したが、名簿が完全でなかったため、宛先の住所から既に転居し、住所不明の者が16名いた。したがってアンケート用紙が手元に届いたと思われる数は284名。

Junior College English Major Graduates' Motivation for Studying English

—An analysis of questionnaire data to assess interest in night programs—

ABSTRACT

Ken Kiyose

The purpose of this paper is to investigate the motivation of studying English of those who graduated from a junior college majoring in English, and their reactions toward initiating night programs for the first time at their alma mater, as well as their intentions of studying abroad.

Three hundred questionnaires were sent out to the alumnae of Hokusei Gakuen Junior College who graduated between 1986 and 1991 and live in Sapporo-shi. The results showed that 90 percent of the respondents think that they should do something to maintain and improve their English proficiency, and over 70 percent are either attending classes or engaged in self-study through English magazines, video and audio tapes, English papers, etc.

They were also very favorable toward opening night English programs at the alma mater. More than 90 percent of those polled showed favorable reactions and as many as 70 percent were interested in attending the classes.

Of all the respondents, 44 percent were thinking about studying abroad for a number of reasons such as improving their English, experiencing life in a foreign country, etc. But the number of people who wanted to strive for a degree from a four-year college or university totaled only 12 percent of those surveyed.

The findings suggest that opening night English programs at the alma mater not only meets the alumnae's needs, but also paves the way for making junior colleges continuing education centers.